

# 中学生派遣事業

# 現地レポート

## 学校新聞特派員

### 音楽姉妹都市仙台市

8月7日、8日の2日間、南宮中学校3年の泉麻緒さん、矢野匠真さん、矢野真白さんの3人が「学校新聞特派員」として音楽姉妹都市の宮城県仙台市取材しました。3人がまとめた報告書の中から、一部をご紹介します。

### 被災地を見学して

1日目の最後に私たちは、津波の被害にあった場所を見に行きました。そこは辺り一面草だらけで家はなく、木も倒れていて悲惨な状態だったので、おまわず言葉を失ってしまいました。心の中で「ここに人が住んでいたんだ。」と



▲仙台市荒浜地区の様子

考えると、とても胸が苦しくなりました。津波で亡くなった人の中に、5歳や私たちと同じくらい14歳の子もいて、本当に悲しくなりました。荒浜地区は、もう住んではいけない地域になっていてはいけません。ですが、その中で自分たちの故郷を取り戻す運動をやっている方もいて、私の中で、まだ何が出来るかは分かりませんが、何かの力になりたいな...という思いが込み上げてきました。実際に被災地を見ると、津波の恐ろしさが伝わってきました。津波や地震は、経験した人にしか分からない怖さがあります。その怖さが少しでも分かった気がしました。

(泉麻緒)

### 食文化について

仙台で有名な食べ物の一つに「牛タン」があります。牛タンの始まりは、太平洋戦争後だそうです。当時、仙台にいた駐留米軍が大量に牛肉を消費していたのだそうです。その際、彼らが残したタンとテールを有効活用するため、1948年（昭和23年）、焼き鳥店であった「太助」の初代店長が牛タン専門店を開いたのが始まりだそうです。ところが、この発明から長い間牛タンは人気がなかったそうです。しかし、高度成長期になり転勤や単身赴任が増



▲台原中学校の生徒との交流

加すると、昼食や夜の街で牛タンの味を知り、東京に戻ったサラリーマンの間で評判になったそうです。なので、牛タンが有名になったのは昔ではないのです。

また、外食から生まれたものだったので家庭で食べることはほとんどないそうです。ですので仙台には、たくさんの牛タンのお店があります。お店の中に入ってお品書きを見ると、牛タンオンリーで、選べるのは量のみでした。

(矢野匠真)

### 学校新聞特派員を終えて

仙台はおろか、東北に行っただけでもなかった私は、この2日間がとても楽しみでした。

台原中学校の生徒会の皆さんとの交流は、正直、初対面でちゃんと話せるか不安でしたが、皆さん面白い人ばかりで、すぐに打ち解けることができました。二時間の交流もあっという間で、別れの時は少し名残惜しい感じがしました。

この交流で初めて、仙台名



▲仙台城址見学の様子

物のずんだ餅と牛タンを食べました。さすが名物と言われているだけあって、美味しかったです。

2日目の晩翠草堂、仙台城址、仙台文学館では、音楽姉妹都市のきっかけである土井晩翠先生のことや、仙台の有名な武士伊達政宗のことを学びました。晩翠先生の生い立ちや、荒城の月がどういう過程で作られたか、また、滝廉太郎先生、中山晋平先生との関係も学びました。そして晩翠先生が、多くの教え子に愛されていたのだということも知ることができました。

(矢野真白)

# 被爆地派遣 〜 広島市 〜

8月4日から6日までの3日間、豊田中学校3年生の小林凛之介さん、戸島大和さん、小林真央さん、佐藤花歩さんの4人が「平和使節」として、被爆地の広島県広島市を訪問しました。4人がまとめた報告書の中から、一部をご紹介します。

## 広島平和記念公園

私たちは初めに平和記念資料館を見学しました。そこには、8時15分で止まった時計や被爆直後の人の蟬人形、全身が爛れた人の写真、ボロボロになった学生服、生き残った人が描いた絵など、思わず目を背けてしまうような生々しい展示がたくさんありました。中には、8月6日の原子爆弾が落とされた後と、その前日の8月5日の広島市の模様がありました。軍都として発展し、多くの施設がおかれ栄えていた広島市。それが一瞬にして焼け野原になってし

まう光景が想像でき、少し怖くなりました。

また、全校で平和への思いを込めて作製した千羽鶴を原爆の子の像へ奉納しました。私たちが行くと、すでにたくさんの千羽鶴が奉納されていて、たくさんの方が平和を願っていることをあらためて感じました。もしも自分が1945年8月6日にこの場にいたら、と思うと胸がいっぱいになりました。

## 広島市立翠町中学校

2日目の午前中は、翠町中学校の10人の執行委員と平和について考える交流をしました。この交流会ではお互いにスライドを使って学校紹介をしました。翠町中学校は毎年6月から8月まで生徒会の活動として平和について取り組んできているそうです。主に、折り鶴を作ったり読書の時間



▲翠町中学校と連帯旗の交換

に被爆証言や遺族証言の朗読をしたり、校内慰霊祭を行ったりと広島ならではの活動を行っていました。

そして連帯旗を交換しました。私たちが描いた連帯旗には中野市豊田の豊かな自然を描きました。そこには「緑豊かな平和を願う。」という思いを込めて描きました。

同じ年の人と平和について話し合う機会はあまりないので、こういった時に一緒に平和について話し合ったりできるととても勉強になりました。

## ヒロシマ青少年平和の集い

2日目の午後は、ヒロシマ青少年平和の集いに参加しました。まず宇佐川弘子さんに原爆被害について教えてもら

いました。原爆の大きさは3メートルと非常に大きいものでした。しかし、爆発するのはピンポン球くらいの小さな爆弾が、2ヶ先の家まで崩してしまう暴風なので私は驚きました。さらに原爆の表面温度は5千℃でさらにウランが含まれています。熱線で着物のあとが皮膚についた人、放射線は毛が抜けるなどの後遺症などがありました。写真はすごく悲しいものばかりでした。

次は北川建次さんが実際の原爆での体験を話して下さいました。北川さんが通っていた竹屋国民学校は爆心地から1・3キロで、北川さんは5年生でした。朝礼の前、教室にいた時に原爆が落とされました。落とされた時はオルガンの陰に隠れたそうです。北川さんは運良く助かりました

が、校舎は崩れボロボロだったそうです。「同じクラスの子は皮膚が溶けたり窓のガラスが体に刺さったりして真っ黒ズルズルドロドロだった。」私はこれを聞いてぞっとしました。ぼろぼろに崩れた校舎の絵が忘れられません。原爆はすごく悲しいものでしてはいけないと思いました。

## 平和記念式典

3日目に参加した平和記念式典には、多くの外国の方も参列していて、世界中から注目されていることが分かりました。

式典に参加し一番心に残っているのは、子ども代表の平和の誓いです。2人が力強く発する一言一言に平和を願う重みを感じました。

式典は1時間と短い時間でしたが、原爆の出来事をもう一度、あらためて考え直していかなくてはならないと思いました。それが今後、私たちのやらねばならないものだと思います。人間が他人の命にできることは、手を差し伸べることであって、絶対に奪うことではないはずです。

広島から日本中へ、そして世界中に、平和の願いが広がることを望んでいます。



▲原爆の子の像



▲原爆ドーム